

## はじめに

平成十一年より平成二十年まで、年一回のペースで開催した公開講演会「シリーズ 自然と神道文化」の第一回から第三回までの記録を再編集した『自然と神道文化 1』が出版されてより、はや一年が経とうとしています。おかげさまで皆様より好評を得ており、我が国古来の伝統文化、思想として育まれてきた神道的な価値観、自然観の良さが、現代社会を生きる人々に一人でも多く理解され、そして個々の暮らしに役立てて戴きたいという、私どもの願いが少しでも伝わったのではないかと喜んでいる次第です。

さて、本書は『自然と神道文化』の第二輯です。本書では、公開講演会の第四回（平成十四年六月二十二日「樹と神道文化」、第五回（平成十五年六月二十八日「火と神道文化」、第六回（平成十六年六月二十六日「土と神道文化」）の講演会をもとに再編集したものです。書籍化するにあたって、幾度も校正の労をお執り下さった講師の先生方にあらためて感謝申

申し上げますとともに、第一輯に引き続き出版を引き受けて戴いた株式会社弘文堂に心より御礼を申し上げる次第です。

本書を先に刊行された第一輯『自然と神道文化（海・山・川）』と併せてお読み戴くことで、日々進歩する現代の科学技術文明のなかにあつて、古より日本人が育んできた自然と人々と暮らしのあり方を学び、現代に役立てるための一粒の種となれば幸いです。

平成二十一年十一月三日

財団法人神道文化会専務理事 松山文彦（東京大神宮宮司）

目次

はじめに……………松山文彦  
1

第一部 樹と神道文化

森と文明を考える……………中村陽一  
9

日本の森はいかに守られたか 古代文明と森林破壊 森を切りつくした西欧文明  
イースター島に見る森林破壊 森と共存した日本文化 森を育てる「式年遷宮」  
森を利用し森を育てる

巨樹体験と暮らしの神々——庶民の生きる力について——……………牧野和春 33

巨樹ブームの起こり 巨樹への関心 巨樹は何本あるか 私が見てきた巨樹

巨樹の機能 樹が発するメッセージ

座談会…樹と神道文化……………中村陽一・牧野和春・稲貴夫 59

## 第二部 火と神道文化

火の神話と民俗……………関根秀樹 75

火の起源神話と発火法 火起こしのいろいろ 神話・伝承の中の火 神事の中の火きり

世界の火祭り 火の文化を伝えるために

火のまつりをめぐって……………加藤健司 103

祭りの中の火の役割り 全国の火祭り 盆の火と正月の火

座談会…火と神道文化……………関根秀樹・加藤健司・稲貴夫  
127

### 第三部 土と神道文化

神道と土の信仰……………茂木貞純  
153

さまざまな個性をもつ土の神 土の神をまつる神社 産土信仰と清め砂の信仰  
循環し生成発展する世界 まとめ

森と土から癒やされる……………平野秀樹  
173

土のスーブ 土の定義 土のない巨大都市 人と人の共存——集団で生きるということ——  
家族の復権 島という共同社会 生と死が混在する暮らし 森とヒト——仮想世界から現実へ——  
「共存」と「寄生」 進化するヒト 森林セラピー研究会 おわりに

座談会…土と神道文化……………茂木貞純・平野秀樹・花堂靖仁  
201

# 森と文明を考える

中村陽一

## 日本の森はいかに守られたか

日本は森と文明が長い間共存してきた唯一の国でした。これは世界史の中で他に例を見ない奇跡といつていいほどの事実です。水田が広がる平地と木々に覆われた山々。この日本人にとって馴染み深い風景の中に、われわれの祖先が長い間育んできた人と自然が共存する知恵と思想が隠されているのです。日本の歴史の中で森と人とはどのように関わってきたのか、世界の文明の歴史と対比しながら探

つてみたいと思います。

## 古代文明と森林破壊

世界史を環境科学的に見ると、文明の歴史はまさに森林破壊の歴史といっても過言ではありません。約一万年前といわれる農耕文明の発祥以来、人間はその生存基盤である森を破壊し続けてきました。四大文明と呼ばれるエジプト、メソポタミア、インダス、黄河をはじめ、数多くの文明はその繁栄とともにほとんど例外なく森林破壊を引き起こしているのです。

古代メソポタミア文明に世界最古の物語といわれる「ギルガメシュ叙事詩」があります。この物語は『旧約聖書』の「ノアの箱舟」の原型と思われる洪水伝説を含む壮大な物語で、主人公「ギルガメシュ」は四千六百年前に実在したと考えられている都市国家「ウルク」王です。この物語の中に、ギルガメシュが町を造るために、レバノン杉の森（写真1）を伐採する話があります。

レバノン杉は「杉」ではなく「松」の一種で、現在のレバノンからシリア、そしてトルコの南部にかけて鬱蒼と茂っていました。レバノン杉の森は「フンババ」という守護神によって守られています。ギルガメシュは壮絶な戦いの末に、フンババの首を討ち取ります。そしてレバノン杉を切り倒し、筏を組んでユーフラテス川を下り都市に運んだと記されています。



写真1 レバノンの山中に僅かに残されたレバノン杉

これはまさに人間による森林破壊の原点ともいえる物語です。そして、ここに記された森林破壊は、近年行われた花粉分析によって、歴史的事実であることが確認されています。土の中に長い間腐らずに残る植物の花粉によって過去の植生を調べた結果、実際に八千年以上前からレバノン杉の森は激しく伐採され、ギルガメッシュ王の時代である四千六百年前にはその多くが失われていたというのです。

レバノン杉は耐久性に優れ、すばらしい芳香を持っています。そのため、メソポタミア文明を築いた数々の王朝の宮殿等に使われた他、商品として各地に輸出されました。

森林破壊は古代エジプトでも起こりました。たとえば約四千五百年前のピラミッド（写真2）の建設には、石材を運ぶ船や陸上での運搬に使う口として、大量の木材が使われました。なにしろ